平成 29 年　2月　17日

研修報告書

氏名：日野　香織

所属：東京女子医科大学附属遺伝子医療センター

研修期間：平成　29年　2月　13日　～　平成　29年　2月　17日

研修場所：千葉大学病院遺伝子診療部

研修内容：

月曜午前：オリエンテーション、遺伝カウンセリング。

午後：講義(松下先生、浦尾先生)

火曜午前：講義(別府先生)、遺伝カウンセリング。

　　午後：症例検討、検査部研究会参加・発表

水曜午前：遺伝カウンセリング

午後：講義(西村先生、野村先生)

木曜午前：遺伝カウンセリング

午後：遺伝カウンセリング、遺伝子診療部研究会参加・発表

金曜午前：講義(宇津野CGC)、症例カンファレンス

午後：遺伝子関連検査実習

遺伝カウンセリング陪席例：

リンチ症候群、ハンチントン病発症前診断、Brugada症候群、NIPTなど

研修成果：

遺伝カウンセリングではリンチ症候群やBrugada症候群、神経難病の発症前診断などの疾患について陪席することができた。特に家族性腫瘍のat riskな患者さんのフォローアップと発症前診断の重要性やそこに至るまでのハードル、発症前診断された方のフォローアップ体制など、保険診療との関係も含め、様々な課題について学び、改めて考えるきっかけとなった。臨床遺伝専門医と認定遺伝カウンセラーの役割分担をされており、チームワークの重要性を再確認できた。それぞれの専門領域の臨床遺伝専門医が遺伝子診療部に関わっておられ、専門分野の遺伝医療についての講義をしていただいた。現在の診断や治療、体制についての知見を得ることができた。

　病院の検査部に遺伝子解析室があり、体細胞遺伝子検査と遺伝学的検査、病原体遺伝子検査をすべて担っていた。研究会では遺伝子解析室以外の検査技師さんも、興味を持って発表を聞いてくださり、遺伝子診療部と検査部との連携を実感した。ADH,ALDHの遺伝子検査では検査の原理や、結果の解釈と日常での応用について、一連の流れを学ぶことができた。

その他（感想・要望・反省点、等）：

　遺伝カウンセリングに加え講義の時間もあり、それぞれの専門の先生方に実症例を交えて直接お話をお聞きし質問することができ、大変勉強になった。他施設での研修は2施設目でしたが、雰囲気や病院の他部門・他科との連携の方法、病院の検査部に遺伝子解析室があり、遺伝子診療部の遺伝子解析を担っていることなど、特徴を実感することができ貴重な経験となった。

　当方の都合で1週間と短期間の研修となったが、その中で手厚いご指導を賜り、研修内容を今後の遺伝医療に生かしていく思いを新たにすることができた。